

関東支部「夏の学校」への学生参加費支援事業受給者報告書

電気化学会北陸支部支部長殿

平成 27 年 9 月 2 日

貴支部からの補助をいただき、表記大会に参加しましたのでここに報告致します。

受給者氏名（ふりがな）：稲葉 洋介（いなば ようすけ）

受給者所属（学年）：金沢大学大学院 自然科学研究科 応用化学コース （修士課程 1 年）

連絡先（メールアドレス）：sei41659@gmail.com

1. 開催日時及び開催場所

2. 参加報告（夏の学校の内容や議論の内容など具体的に書いて下さい）

3. 若手支援事業への意見（夏の学校に参加して北陸支部の若手支援企画等についての提言等を書いて下さい）

電気化学会関東支部 H27 年度「夏の学校」は八王子セミナーハウス（東京都八王子市下柚木 1987-1）にて、8 月 26 日（水）～ 27（木）の 2 日間、参加 9 大学、参加者 75 名（内学生 64 名）で行われました。

1 日目はまず、鶴見大歯学部の上村一人先生による「医学界から見た医工連携-光・電気化学に期待すること」というタイトルの講演を聴講しました。既存の治療法を見直し新たな方法を研究することで、未来の患者を助ける医者を目指すという上村先生の熱意がとても伝わる講演でした。そこで、今まで誰も考えなかった光・電気化学的手法によって治療を行う研究には、今後の医療と工学との連携によるさらなる可能性を感じました。講演後は、学生によるポスター発表を行いました。私も発表させていただき、様々な大学とのディスカッションを通して多くの意見交換を行うことができました。また、発表会は 3 部に分けられており、一つひとつの発表に対してより深い討論ができ、とても勉強になりました。ポスター発表後は招待講演 2 として、東京工業大学の大河内美奈先生による「食物アレルギーに関与する抗体エピトープ解析」というタイトルの講演を聴講しました。医療だけでなくセンサーデバイスなどへ幅広い応用を目指しているということで、広い視野をもって研究を行うことの大切さを学ぶことができました。招待講演の後は、研究室紹介を兼ねた懇親会が開かれました。普段は交流のできない他大学の学生や先生方と研究を通じた様々な意見交換や、それぞれの研究生活、悩んでいることや進路のことなど幅広い交流ができました。また、お酒を酌み交わした懇親会ということで、よりいっそう親睦を深めることができました。

2 日目はまず、筑波大学の辻村清也先生による「酵素電池～異分野交流のおもしろさ～」というタイトルの講演を聴講しました。一見難しそうに見える問題も、異なるアプローチから考えることによって解決できることがあるというお話を伺い、異なる視点から物事を考えることの大切さを学びました。また、そのきっかけとなる異分野交流の重要性について知ることができました。その後、東京大学の小森喜久夫先生による「医療・環境評価系バイオアッセイデバイス開発を目指して」というタイトルの講演を聴講しました。現在の医薬品開発の評価方法における問題点や新たな開発に向けた取り組みなどを知ることができました。最後に、前日の発表のポスター表彰が行われました。そこで光栄にも、私の発表が優秀ポスター賞に選ばれ、表彰していただきました（写真中央が受給者）。多くの優秀な発表の中での表彰ということで、普段の研究が関東支部という場で認められ、大きな自信を得ることができました。

今回の夏の学校は、学ぶべきことと刺激がとても多い 2 日間となりました。特にそのように感じた理由はこの場が受身の勉強会ではなく、先生も学生も一体となったより主体的な場であったためです。そのため、今回が初めての参加でしたが、積極的にコミュニケーションをとることができ、普段の研究生活では得られないような貴重な体験となりました。今回の人とのつながりを大切にし、今後の学会発表などの機会を通してさらに広げて発展させていきたいと考えています。また、北陸支部でも同様な会を設け、学生の幅広い刺激や学びの手助けになる機会があればいいと思います。最後に、「夏の学校」への参加費支援をいただき、ありがとうございました。

